あなたの「やってみたい」を応援します!!

ゆめこらぼ通信

第8号
発行
平成22年8月1日
隔月発行

「ゆめこらぼ」は、コラボレーション（協働）によって夢を広げ、夢があふれる空間をめざします
発行：西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ　〒188-0012　東京都西東京市南町5-6-18　イングビル1階

「横型の、対等な関係つくろう」

―第1回ＮＰＯ・市民活動ネットワーク―

国内ＮＰＯの草分け　久住さん講演

今年度第１回の「ＮＰＯ・市民活動ネットワーク」は７月17日、イングビルで開かれ、９団体の関係者と関心を持つ人たち計14人が参加しました。

今回のテーマは「市民活動にとってネットワークとは」。講師の久住（くすみ）剛さん＝**写真中央奥**＝は神奈川県職員として勤務するかたわら、全国的な場で市民活動、行政とＮＰＯとの協働などの研究と実践に長年携わっており、寄付文化や資金調達支援などに取り組むＮＰＯ法人パブリックリソースセンターの代表理事も務めています。

久住さんは、ネットワーキング（ネットワーク）は「共有する価値に向けて結び合う関係」であって、自己利益のための「人脈」「コネ」とは違うこと、またネットワーキングは「横型・対等」な関係が特徴で、縦型・上下・主従関係と異なり、前者が「握手」ならば後者は「ちょうだい！」のイメージ、と例えました。

パートナーシップ（協働）については「公共サービスの主体は本来、市民やＮＰＯ」と行政に大胆な発想の転換を求めたほか、ＮＰＯ側には行政の持つ資金や組織力の差を認めたうえで二人三脚のような対等となる努力を呼びかけ、もし怠れば、「安上がりでお仕着せの下請けになりかねない」と述べました。

「環境に配慮したまちづくり」を考える

8月28日、シンポジウム

ゆめこらぼは、８～９月には次の事業を予定しています。参加募集要領など詳細は各月１日または15日発行の広報西東京（市報）をご覧ください。

■第2回市民シンポジウム

「環境に配慮したまちづくり」がメーンテーマです。上場企業としていち早く環境保全に取り組み、全社員参加のボランティア組織「ちきゅうくらぶ」＝４面参照＝を持つ損保ジャパン事務本部（西東京市）の岸正之さん＝**写真**＝が基調講演したあと、まちづくりや環境の分野で活動する市内４団体の代表が西東京のまちづくりを語り合います。別の７団体による活動アピールもあります。各団体の活動の様子などを紹介するパネル展示も行います。

▽８月28日（土）午後１時～４時20分、田無駅北口アスタビル２階センターコート

■企業懇談会

西東京市で会社を経営するかたわら、「アジア植林友好協会」などのＮＰＯ法人を立ち上げた宮﨑林司さんに、その思いを語っていただきます。

▽9月6日（月）午後2時～4時、田無公民館

■第3回トークサロン

西東京市と近郊向けの地域情報紙「スマイルタウン通信」の編集長・谷隆一さんを囲み、情報収集や発信などについて語り合いませんか。

▽9月22日（水）午後7時～8時30分、ゆめこらぼサロンコーナー

―今号の主な内容―

2面　ヒマワリ畑の迷路、間もなく公開
ＮＰＯ法人設立を専門家に相談
定年退職前後の地域参加は…
3面　助成金ゲット作戦、助成金情報
4面　「ちきゅうくらぶ」とは

旧東大農場ヒマワリ畑の迷路
8月 11 日から公開予定

大輪の花を夢見て丁寧に種まき作業

畑の入り口を示す手作り看板

西東京市の花・ヒマワリの種まきから油搾りまで連続して市民に体験してもらう、東京大学と市の協働事業「ひまわりプロジェクト DE OIL」が旧東大農場で行われています。種まき、苗の間引き、補植などの作業が進み、8月 11 日（水）から 27 日（金）まで、花畑の迷路が一般公開される予定です（午前 9 時 30 分～午後4時、土・日・月曜は閉園）。

この事業に参加しているのは 20 代から 70 代までの 27 人。「去年ヒマワリ畑を見て感動し、今年は自分の手で育てて子どもに見せたい」「家族においしい天ぷらを食べさせたい」など動機はさまざまです。梅雨入り翌日の 6 月 15 日、真夏を思わせる強い日差しの下、参加者は東大大学院の米川智司准教授から種まきの作業手順などを聞いた後、横1列になり2歩を目安に指で穴を開け、種を植えていきました。

種は北海道から取り寄せた油とり用で、花は観賞用のものよりも小さめだそうです。7月の猛暑の中、何日も草取りを続けたり、迷路となる部分の苗を芽が出なかった所に植え替えたりして成長したヒマワリはまさに汗の結晶。

今年は畑の面積が約1200平方㍍と約2割広くなり、迷路もやや複雑になった分、訪れる人たちの楽しみも増えることでしょう。

どうします？　定年後の居場所
トークサロン　先輩からヒント聞く

今年 2 回目の「トークサロン」は7月 24 日、「定年退職前後に地域参加を考える」をテーマに、当センターのサロンコーナーで開催され、ご夫婦1組を含めて計 10 人が参加しました。

ゲストは、東村山市のボランティアグループ「東村山懇団塊（こんだんかい）」の嶋田節男さん＝**写真右**＝。嶋田さんは、このグループが 06 年に東村山市主催の「団塊世代のシンポジウム」に市民公募で参加した団塊世代の集まりであると由来を説明したうえで、「定年後の約 10 万時間をどのように過ごしていくのか」と定年後の居場所について参加者に問いかけました。

市報などへの関心が高い女性の方が男性よりも早く地域に溶け込んでいると指摘する嶋田さんは、地域デビューにもさまざまな立ち位置やプロセスがあると、具体的な事例を挙げて分かりやくす説明してくださいました。

例えば、手軽に参加できる「手づくり小物雑貨市」から「市民起業」に関心を持つようになる方や、都下唯一の国宝建造物のある街・東村山市の歴史と文化をもっと知りたいと「東村山たんけん隊」に加わる方など。また東村山懇団塊では市民の多様なニーズに応えていくために、運営にあたっては「水平」「自立・自律」「分散」を心がけているとの説明があり、これからの市民活動のあり方に一つのヒントを与えているようです。

参加者からは、「他の地域の話が聞けてよかった」、「さらに知的好奇心を満たすものが欲しい」などの声が寄せられ、団塊世代の関心の高さを示しているようです。

ＮＰＯ法人設立を専門家に相談

今年度の新規事業である「専門相談会」の 1 回目は 7 月 23 日（金）と 24 日（土）の両日、イングビルで開催されました。相談分野はＮＰＯの法人設立や組織運営についてで、相談にのっていただいたのはＮＰＯ事業サポートセンター専門相談員の山之内克行さん。これまでＮＰＯ法人の設立・運営相談員として約 100 法人を立ち上げた大ベテランです。

四つの団体の 6 人が、それぞれの団体が抱える問題をもとに相談され、例えばＮＰＯ法人化を具体的に準備されている団体には、法人設立と任意団体解散の時期はいつごろが良いかや、任意団体の財産をいつどのように処分するかなど、突っ込んだアドバイスもありました。また、子どもたちのスポーツクラブを運営する団体には、ＮＰＯの基礎と法人化するメリットとデメリットなどを分かりやすく説明。定款など主要申請書類を作成するときの留意事項も丁寧に説明していただきました。

参加者からは、「今後は会計や労務の相談をしたい」「自分たちも法人化ができるかもと思えるようになった」などの声が寄せられました。

2回目の専門相談会は、「会計」または「税務」などの分野で下期に開催する予定です。ご期待ください。

西東京子育てコム代表
***田中のり子**さんの*

助成金ゲット作戦！

中

前号では、助成金情報の探し方をお伝えしました。今回は、助成金の＜申請のポイント＞についてお伝えしたいと思います。

まず、助成金募集している団体が、どのような団体か知ることです。募集要項を読み込んだり、過去にどのような事例（団体）に助成したりしているかをホームページなどで確認してみましょう。

ですが、関連していなさそうな募集でも、関連づけを考えることで、申請できる幅が広がります。例えば、私たちは「育児支援」が主な活動ですが、「環境」「まちづくり」などの助成金も視野に入れて検討することもあります。

また、助成金は特定非営利法人（NPO 法人）でなければ申請できないということはありません。サークル活動でも「任意団体」として申請できるものもあります。活動年数が少ない、人数が少ないなどの理由であきらめず、まずは申請することが大事です。

実は、西東京子育てコムでは「西東京市子育てマップ作成事業」で申請して２度落選しています。ですが、申請先の方が事業を他の財団に紹介してくださり、助成をいただくことができました。このような例からも、応募が次につながる可能性もありますので、積極的にチャレンジしてくださいね。

次号の最終回では申請書の書き方のポイントをお伝えします。

（田中のり子 noriko.phn@nifty.com）

☆助成金情報☆

（詳しくは各助成団体のホームページをご覧ください）

◆ＮＰＯ法人日本チャリティプレート協会チャリティプレート助成金【対象】団体またはグループで、アクティビティセンター（自立生活センター、グループホームなど）または小規模作業所であること（ほかに在籍障害者数、財政状態、作業活動などに条件あり）【助成金額】設備、備品、車両のうちできるだけ１種類とし、１件当たり上限 50 万円【応募期限】８月 31 日【問い合わせ先】日本チャリティプレート協会総務課須藤さん（電話 03･3381･4071、ファクス 03･3381･2289）

◆財団法人あしたの日本を創る協会あしたのまち･くらしづくり活動賞【対象】地域住民が自主的に結成し運営している団体、または地域活動団体と積極的に連携して地域づくりに取り組む企業、商店街、学校等で、地域に即した発想・リーダーシップ・方法などにより、地域づくり・くらしづくり・ひとづくり活動に２年以上取り組み、大きな成果をあげて活動している団体【表彰】内閣総理大臣賞１件（賞状と副賞 20 万円）、内閣官房長官賞・総務大臣賞各１件（いずれも賞状と副賞 10 万円）、主催者賞５件程度（賞状と副賞５万円）、振興奨励賞 30 件程度（賞状）【応募期限】８月 31 日【問い合わせ先】財団法人あしたの日本を創る協会「あしたのまち・くらしづくり活動賞」係（電話 03･3251･6681、ファクス 03･3251･6682）

◆eco japan cup ライフスタイル部門･市民が創る環境のまち“元気大賞 2010”【対象】個人を除く、市民グループ、団体、事業者、ＮＰＯまたは行政を交えたネットワーク【賞】元気大賞 30 万円、奨励賞 10 万円、特別賞 5 万円、企業賞各５万円または副賞、元気大賞　電通賞５万円または副賞【応募期限】８月 31 日【問い合わせ先】ホームページの「お問い合わせ」（http://www.eco-japan-cup.com/contact/）

◆イオン環境財団第 20 回環境活動助成【対象】開発途上国および日本国内で、生物多様性の保全と持続可能な利用のために①植樹②森林整備③砂漠化防止④里地・里山・里海の保全⑤湖沼・河川の浄化⑥野生生物の保護⑦絶滅危惧生物の保護に該当する事業で、かつフィールドワークを伴う活動【助成金額】総額１億円【応募期限】９月 10 日【問い合わせ先】イオン環境財団　阿部さん・坂野さん（電話 043･212･6022、ファクス 043･212･6815、ＵＲＬ　http://www.aeon.info/ef）

◆大和証券福祉財団▼第 17 回ボランティア活動助成【対象】ボランティア活動を目的とした団体・グループ（申し込みに際しては社会福祉協議会・共同募金会などの推薦を必ず受ける）で、特に在宅老人、障がい児・者、児童問題などに対する活動【助成金額】１団体当たり上限 30 万円、総額 4500 万円【応募期限】9月 15 日【問い合わせ先】大和証券福祉財団事務局（電話 03･5555･4640、ファクス 03･5202･2014）**▼第 17 回ボランティア活動等に関する調査研究助成**【対象】研究委員会を組織したうえで、ボランティア活動・地域福祉にかかわる実践的モデル事業開発に関する研究等【助成金額】１件上限 100 万円、総額上限 300 万円【応募期限】【問い合わせ先】ともに前記に同じ

◆かめのり財団第4回かめのり賞【対象】日本とアジア・オセアニアの国際相互理解の増進に草の根で貢献しているＮＰＯ、ボランティアグループ、個人【賞の内容】10 件までに、正賞の盾および副賞（活動奨励金）50 万円【応募期間】８月 23 日～９月 15 日【問い合わせ先】かめのり財団「かめのり賞」係（電話 03･3234･1694、ファクス 03・3234・1603、ＵＲＬ　http://www.kamenori.jp/）

◆住友生命「未来を築く子育てプロジェクト･子育て支援活動の表彰」【対象】より良い子育て環境づくりに資する活動を行い、成果を上げている個人・団体（規模は問わない）【表彰】内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞と厚生労働大臣賞は表彰状を未来大賞受賞者のうちから各１組に。未来大賞は表彰状と副賞 50 万円（未来賞と合わせて計 100 万円）を２組に。未来賞は表彰状と副賞 50 万円を 10 組程度に【応募期限】９月 30 日【問い合わせ先】「未来を築く子育てプロジェクト」事務局（電話 03･3265･2283）

社員がつくる　ちきゅうくらぶ

市民シンポジウム（１面参照）で基調講演していただく岸正之さんの会社には、社員自身のボランティア活動を支援したり、きっかけづくりを進めたりしている組織「ちきゅうくらぶ」があり、全社員がメンバーです。

西東京市にある事務本部ビルでは、障がい者向けのパソコン教室を開設して７年。一般の教室は車いすが入れないなど受け入れが難しいのですが、ここではパソコン７台を使い、生徒１人に機器１台と先生１人が付きます。「パソコンとの出合いで生活の幅が広がった」など、喜ばれているようです。

ビル内の社員食堂にいたるフリースペースは福祉系ＮＰＯ団体などの物品販売＝**写真**＝に使ってもらいます。従業員が約 1500 人もいることもあり、展示即売では市内の事業所で最大の売り上げとか。

東京都立小金井公園の清掃活動は年２回。公園を管理する都の了解を得て 2002 年から続いています。ごみ拾いを〝見せる〟ことが公園利用者の意識改革につながってくれれば、と期待しています。

地域社会との共生やＣＳＲ（企業の社会的責任）について、岸さんは「『何をやったか』ではなく、社員が地元の人と出会うことで『人としてどう成長するか』ではないでしょうか」と話していました。

～新たに登録いただいた団体～

（2010 年６月～７月）

▼ＮＰＯ法人アジア友好植林協会（アジア地域での植林活動により熱帯雨林の再生と人々の自立を支援する）**▼ＮＰＯ法人ボルネオオランウータンサバイバルファウンデーション日本**（絶滅の危機にあるオランウータンの生息地・インドネシアの森林保護・再生に関する事業を行う）**▼ＮＰＯ法人東京雑学大学**（毎週1回の講義などを通して市民の生涯学習を推進し、心豊かで健康な人々の生活に貢献する）**▼西東京市太極拳協会**（ゆったりとした動作を通じ、無理なく楽しく健康な心身をつくる）

＜この結果、登録団体は計 38 となりました＞

みんなの本棚

社会力を育てる

門脇　厚司<著>

岩波新書

他人や社会への無関心が、子どもや若者の間に広がってきている。他人とかかわるのが嫌いであったり、他人に対する関心が低く他者との相互行為が少なくなったりするなどの「非社会化」現象に、著者は警告を発する。

社会の実体とは生きている人間の集まり、つまり人間関係の集積で、著者は、その「人と人とがつながり、社会をつくる力」を「社会力」という。社会力が豊かな人のイメージとして例示されているのは、

・人間が大好きな人間
・他の人といい関係がつくれる人間
・他の人を思いやれる人間
・自分も社会の一員であるという自覚がある人間

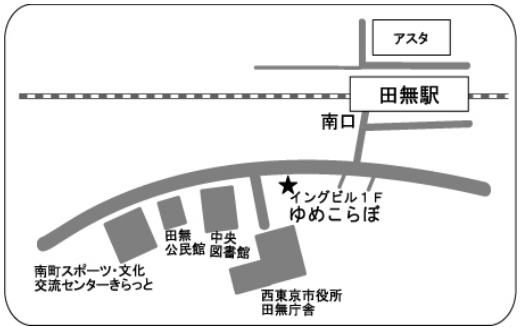
など。

この「社会力」が人の脳機能を高めて、進化の過程で私たちヒトの脳は大きくなり性能を高めてきた。子どもが成長していく過程でも、多様な大人たちとの直接的な交わりを通しての「他者の取り込み」が決定的に重要だと力説し、『社会力を育てる』ことによりこれから実現したい社会を互恵的協働社会と呼ぶ。　（西口　徹）

《スタッフから》

○…定年後の地域参加のきっかけにしたいという思いも秘めてこのセンターに勤務したものの、まだ一歩を踏み出せないでいます。市内で活躍されているシニアの方々のパワーに圧倒されている毎日です。ハードルの高さに負けている自分が情けないです。でも、いつかは寅年のパワーを全開して、ハードルを飛び越えてみせます！（加藤）

○…自宅仕事に変わったため主婦ならぬ主夫となり、洗濯は毎朝の日課になった。「主婦を殺すにやぁ雨の三日も降ればいい」とはよく言ったものだ。今年の気候変動には参った。外干しにするか室内干しにするかは毎日悩むところ。先日、降雨の前触れをズバリ当てて、洗濯物をいち早く取り込んだときは、ひとり鼻高々でした。（金子）



開館日：水～月（10時～21時）土・日・祝日オープン
休館日：火曜日（祝日の場合は開館し次の平日に休館）・年末年始
〒188-0012　西東京市南町 5-6-18　イングビル1階
西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ
Tel: 042-497-6950　　FAX: 042-497-6951
E-mail: yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp
URL: http://nishitokyo.genki365.net/